

甲州市 ケカチ遺跡

遺跡調査現地説明会
平成27年11月14日(土) 10:00～

所在地 甲州市塩山下於曾・熊野地内
調査原因 市道下塩後22号線建設
調査期間 平成27年9月3日～調査中
調査担当 昭和測量(株)文化財調査課



竪穴建物 遺物出土状況



D地区・E地区ドローン空撮
合成写真(10/9・10/30撮影)

調査の成果

- A地区: 平安時代の竪穴建物1軒、土坑墓1基(中世か)、埋没谷の肩部
- B地区: 土坑2基
- C地区: 埋没谷の肩部
- D地区: 方形周溝墓の周溝、平安時代の竪穴建物3軒
- E地区: 方形周溝墓1基、平安時代の竪穴建物2軒、溝3条

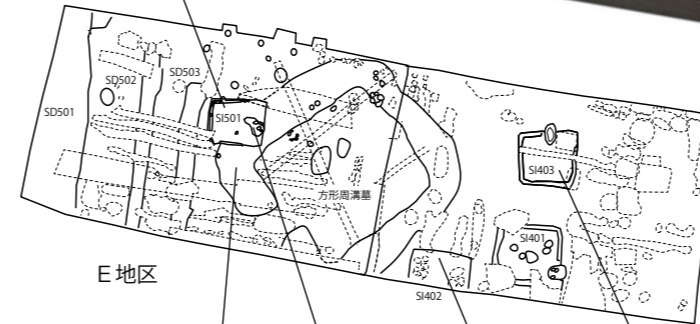
遺跡全体で、古墳時代の方形周溝墓1基、平安時代の竪穴建物6軒・溝3条、中世と推測される土坑墓1基などの遺構を検出しました。E地区では方形周溝墓の周溝の上に重なって平安時代の竪穴建物が発見されています。数百年の時を隔てた土地利用の移り変わりを一目で見ることができ大変貴重な例です。

※方形周溝墓 弥生時代前期後半から古墳時代にかけて日本列島の各地で築造されたお墓。方形に区画するように溝を掘り方台状に低い墳丘を盛り整えて埋葬施設を設けた。

古墳時代の方形周溝墓はD地区とE地区にまたがって検出され、周溝については運良くその全容を確認することができました。周溝は方形に巡っており、一辺の長さは12～14mです。溝の南西側の一辺は中央で切れて陸橋になっています。埋土は黒色の粒の細かい土が堆積していました。土師器の壺・甕・高坏・器台などの遺物が出土しており、壺の表面は丁寧にみがかれています。周溝の内側の方台部で検出した土坑を詳しく調査しましたが遺物は出土しませんでした。また墳丘を確認することができませんでした。

平安時代の竪穴建物は、ほとんどの建物が一辺が約4mの正方形に近い形をしており、硬く踏みしめられた床面が残っていました。カマドの痕跡が発見された建物は5軒あり、そのうち1軒を除いては東側にカマドが設置されていました。遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器などが出土しています。とくに比較的新しい時期と考えられる建物では、もれなく墨書土器(墨で文字や記号などが書かれた土器)が発見されていることが注目されます。また、E地区の西端では南北方向に走る溝が3条検出されており、そのうち2条は並走しています。出土した遺物から建物と同様な時期に機能していたものと考えられます。

土坑墓の大きさは長さ1.1m、幅80cm、深さは40cmほどです。人の頭蓋骨と大腿骨の一部が発見されました。頭は北に位置しており、顔と体を東側に向け、折り曲がった状態で埋葬されていました。人骨の両側に20cmほどの礫が並べられ、さらに40～50cm程の大きな礫が3つ、人骨に覆いかぶさるように置かれていました。副葬品などはなく詳しい時期が分かりませんが埋葬の形態や出土例などから中世の土坑墓と推測しています。



E地区

D地区



ケカチ遺跡遺構全体図
S=1/500

A地区

A地区拡張区

B地区

C地区



竪穴建物 カマド



竪穴建物 遺物出土状況



竪穴建物 遺物出土状況



方形周溝墓 遺物出土状況



竪穴建物 墨書土器出土状況



土坑墓